

1. なぜ「キャリア教育」が必要なのか（本会議が発信するメッセージ）

(1) キャリア教育の理解の共有（「キャリア教育」とは何か、子どもの教育に関わる者が共有するために）

「…より分かりやすく言えば、「キャリア教育」とは、子どもたちが、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育である…」

(2) 学校、教育界へのメッセージ

- ・なぜ、今、学校でキャリア教育に取り組まなければならないのか。
- ・学校での生活や学び・進路選択に、子どもたちがはっきりとした目的意識を持って取り組めていないのではないかという問題。
- ・社会の「本物」に触れさせたり「働くことの喜び」を伝えると同時に、“世の中の実態や厳しさ”を伝え、子どもたちがその両面を学ぶことが重要。
- ・「なぜ学ぶのか」を学ぶ教育として、キャリア教育は最重要課題に位置づけられる。

(3) 地域・社会、産業界へのメッセージ

「…近い将来、日本の社会・経済を支えることになる子どもたちに、学校での生活や学び、進路選択に気付きや考えるきっかけを与えることは、地域・社会や産業界も連携して担う役割であろう…」

2. どうすれば学校で「キャリア教育」が行われるようになるのか

(1) 現状認識

- ・キャリア教育を進めるに当たって、各学校段階それぞれに特有の課題が見られるというのが実態。
- ・高等学校普通科におけるキャリア教育を、これから関係者が一丸となってどのように作り上げていくかということは大きな課題。
- ・学校が外部の教育資源等と連携・協働していくに当たって、その調整に課題がある場合が多く見られる。

(2) 誰が本気になってキャリア教育を行っていくのか

- ・キャリア教育は様々な主体の連携によって進められるものであるが、その場合でも中核となるのは学校。
- ・学校を支える教育委員会が率先して牽引役となる例や、首長部局や地域の産業界が主体的に学校や教育委員会と連携して成果を挙げている例もあり、こうした取組が期待される。

(3) 教育課程の中にキャリア教育をどのように位置付けていくべきか

- ・教育活動全体を通じて意図的・体系的・系統的にキャリア教育に取り組むため、全体計画や年間指導計画の作成が必要。
- ・全ての学校の特別活動や総合的な学習の時間、道徳の時間で、ある程度の時間を割いて取り組むことが求められる。
- ・教員がキャリア教育に取り組みややすい材料、すぐにも使用できるような実践例・授業例や指導案などの提供も有効。
- ・高等学校普通科において「産業社会と人間」等のような中核となる時間を明確に位置付けることについて検討を進めることが必要。

(4) 学校、教育委員会は何をすべきなのか

- ・現職教員のキャリア教育についての理解促進・能力の向上のため、今既に行っている様々な教育活動を、キャリア教育の視点で捉え直し、キャリア教育の視点で焦点化し、意図的・体系的・系統的に行うことができるように理解を深める場の設定が必要。
- ・学校のキャリア教育に関する体制について、校長のリーダーシップの下、キャリア教育担当の専任者を置いて推進委員会を立ち上げ、その者や組織を中心に、学校全体で、誰がどのような責任を負うのかを明らかにしつつ、共有を図りながら進めることが重要。
- ・大学の教員養成課程におけるキャリア教育の位置付けについても検討することが期待される。
- ・各教育委員会でのキャリア教育に関する指導体制に関して、担当指導主事の研修強化や担当期間についての配慮、また、外部機関との連携も期待される。

(5) 地域全体でキャリア教育に取り組むようになるには何が必要か

- ・各自治体単位で、キャリア教育のための産学官連携を進めるべき。
- ・そのためには、教育界、首長部局や産業界等が一体となった協議の場を設けることが必要。

(6) 全国規模でキャリア教育を後押しするためには何が必要か

- ・国におけるキャリア教育コンソーシアムの設置や、多忙な教員や学校外部の地域・社会・産業界が簡単にアクセスしてキャリア教育を進める上で必要な支援情報等が一覧できるキャリア教育ポータルサイトを文部科学省HPに作成することが強く望まれる。
- ・キャリア・コンサルタントやキャリア教育コーディネーターといった外部人材の所在や実績など具体的な情報を、学校が利用しやすい形で提供する体制を整えることが有効。

※ 中間取りまとめ以降は、「キャリア教育を進めていく上での教育委員会や学校内での体制整備の在り方」や、「キャリア教育についての様々な関係機関がどのような役割を担いながら連携協働していくことが求められるか」について議論を進めていく予定。